

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000234		
法人名	社会福祉法人 一誠福祉会		
事業所名	グループホームくらら (Aユニット)		
所在地	愛知県豊橋市川崎町216-2		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町村受理日	平成26年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、私たちは、入居者の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせる家になるようにお手伝いします。2、私たちは、入居者の皆さんの生活習慣を大切にしながら、3S(Smile,Speed,Smart)の精神で接していきます。3、私たちは、入居者の皆さんの尊厳をいつまでも大切にしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、特別養護老人ホームと併設の、二階に位置する施設である。理念に掲げている3S(Smile,Speed,Smart)の精神とは、無駄なく賢明であり、安全で落ち着いたベースを守り、職員同士、笑顔あふれるチームワークを築くという精神である。サービスの提供にあたっては、個々の能力が活かされるよう、その人に合った対応をとることを念頭に置いており、職員間で意識の共有に努めながら、入居者に寄り添い、笑顔ある支援を心掛けている。落ち着いた照明とダークブラウンを基調とした色彩や、床全面のカーペットが温かみを感じさせる共用部であり、各ユニット間のセミパブリックスペースは、2往復でちょうど100mあり、運動機能の向上や維持に利用している。又、同スペースで、毎週水曜日には洋風喫茶、金曜日は和風の茶処を開催し、おやつを楽しんでいる。食事時は、好きな場所で食べる入居者がいたり、職員も共に会話を楽しんでいたりと、又、その人に合う机や踏み台を使用して姿勢に配慮していたり、安心して穏やかな雰囲気の中での食事風景を拝見することができた。開設3年目、職員の定着を図り体制を整備しながら、今後、地域との関わりやホーム内行事等の間口を、さらに広げていこうと取り組んでいる事業所である。今後とも発展充実が期待できる施設であり、地域の介護拠点としての更なる充実が期待できる施設と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1)全ユニットに掲示してある。 2)定期的に朝礼で理念を再確認している。	情報を職員間で共有するため、朝礼を2ユニット合同で行っている。その際、AユニットとBユニットで毎日交互に開催し、より多くの職員が出席できるよう配慮している。職員は、理念に掲げる「3S(スマイル、スピード、スマート)」のうち特に「スマイル」、笑顔の提供に努めて、入居者の日常生活の支援に取り組んでいる。	理念を職員間で浸透させ、理念に則ったサービス提供について確認し合い、また、入居者や来訪者にもホームの理念がわかるよう、理念の掲示に工夫されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1)散歩時ゴミ拾いをしている。 2)地域主催の行事に職員と共に参加している。	町内会へ加入し、祭りへ参加した際や、初詣の際に地域住民と交流している。また、地域の一員として入居者と共に、廃品回収や小学生の登校見守り等を行っている。散歩時のゴミ拾いや草刈り、回覧板配達も入居者で行い、近隣の人達と挨拶を交わしている。また当施設は、津波発生時の一時避難所であり、その避難訓練を町内会と行い、連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での地震や津波等、防災の避難所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族(代表)、入居者(代表)、自治会長、介護相談員、地域包括支援センター担当者に参加してもらい、2か月に一度開催している。写真など紹介し、意見交換を行っている。	行政、地域住民、家族、入居者の参加がある。事業所の活動報告(入居者の日常の様子の写真添付)を行っている。地域包括の担当者から予防接種の案内等を貰っている。また、家族からの外出回数についての意見や、地域住民からの地域の危険個所の情報が、散歩の際に反映され、サービス向上に役立てられている。	運営推進会議への参加を、家族全世帯へ呼びかける等、多くの人達の参加を募り、交流を深め、情報共有の場として運営推進会議がより活かされる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が毎月の状況確認を行っている。また、運営推進会議にも出席してもらっている。	市の介護相談員派遣事業を利用している。月2回来訪の介護相談員により、介護サービスの充実が図られていると共に、ホームの取り組みが、市の介護長寿課へ把握される仕組みが構築されている。その他、市主催の講演会への出席、配布DVDやシルバー優待券を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1)対象となる具体的な行為を理解している。 2)日中(10時～19時)は施錠はしていません。 3)身体拘束員会を開催している。	法人の拘束委員会での議事録を職員全員が閲覧している。危険を伴いやむを得ない場合は、家族の同意を得て、回避に向け検討しながら行っている。エスケープ防止対策として見守りを強化し、屋外へ出たり、好みの事を勧める等して気分転換を図っている。食事時は車いすから椅子へ移乗している。職員のスピーチロック(制止)等に対しては、その都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1)関連する研修に積極的に参加するようにしている。 2)常に管理者と職員間でコミュニケーションとり、ケアの内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修に参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1) 運営推進会議を行っている。 2) 家族とのコミュニケーションを良好に保つよう努めている。	家族へ、面会時や電話で、入居者の様子等を詳細に報告するよう配慮しており、意見や要望が出し易い関係作りに努めている。家族から出た意見、要望等は記録し、職員全員で共有している。受けた要望が即座に対処し難い場合には、代替策を導入する等して応えている。	ホームの取り組みが、家族へ伝わる仕組み作りを期待する。運営推進会議への参加促進や議事録の配布、おたより発行等により、ホームの現状を伝え、家族が意見や要望を出しやすい関係作りを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1) 職種別ミーティングならびに会議、委員会等で職員の意見を吸い上げている。 2) “案件ノート”というものに、意見やアイデアを記入してもらい、定期的及び随時ミーティングを行っている。	意見、要望がある場合は案件ノートを活用し、ノート内や朝礼などで意見交換を行っている。「テレビの番組視聴方法を検討して有意義な時間を提供したい。」「職員の支援の下、掃除、布団干しなどの日常生活の活性化を図りたい。」などの案件に対して、皆で考え決定し、反映に努めている。又、幹部職員は、現場職員の変調に注意しており、随時の声かけや、ユニットリーダー会議で話し合う等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1) 人事考課を行っている。 2) 業務の一環として各種研修へ参加を促している。 3) 希望する日に休みを取れる様、配慮して勤務シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1) 専門知識向上の為、施設内で各種試験を実施している。 2) 各種研修への参加を後援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にグループホームが3施設あるため、情報の共有をしてサービス向上につなげていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと会話をする時間を作り、不安なことや要望などを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に時間をかけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	老健、デイサービスなどのサービスについて説明し、グループホームが最善策であるか、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の自立して生活していた頃の状態を把握し、食事の準備や洗濯など生活動作に関わるように配慮した声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係に立ち入らぬよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出など、家族が来れない時は代わりに行くようにしている。	馴染みの場所へは、家族に協力いただく場合が多いが、以前住んでいた地域や住居へ行ったり、知人を訪ねたり、入居者一人一人の「生活史」を参考に、個別で支援している。友人等の来客があればお茶を出し居心地良いよう配慮し、希望あれば宿泊も可能。年賀状の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が生まれやすい様に職員が仲立ちするなどして配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域行事へ参加し、顔を合わせられる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の時間を多くとり、その中から聞き出せるよう努めている。	入浴時、食事中、散歩時などの会話の中から思いや意向を聞き取っている。又、入居者の職歴などをふまえた生活史、家族からの情報から、本人の意向を勘案して提供してみたところ、その方の楽しみを新たに発見した事例がある。収集した情報は申し送りなどで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に聞き取りし、センター方式に基づいた様式に適宜記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1) 調理、掃除など日常生活を行ってもらいながら動作を確認している。 2) 記録を基にカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめに家族や主治医と連絡を取るようし、現状に即した介護計画を作成している。	三か月に一度、事前に職員から意見を募集し、朝礼時にケアプランの内容確認と、サービス実施状況の把握と共有をしている。変更の際には、常日ごろから聴取している本人や家族の希望と、医師からの意見、ケア日誌等の記録を基に、看護師含めその日出勤の職員で話し合って作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をマニュアル化せず、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動や行事に積極的に参加する様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医院に受診している。また、各々のかかりつけ医とは詳細な情報交換が出来る様努めている。	かかりつけ医の受診は、職員対応が基本。特変時には、情報を共有するため同行し、又、残薬の報告を小まめに行っており、家族から感謝の声が上がっている。夜間急変時は看護師の指示、又は、緊急搬送で対応。その際に、個人ファイルを持ち出して速やかに情報提供を行っている。協力医は法人の整形外科、内科がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、看護師に情報を提供し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。その際、家族の希望を尋ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1)入居時に、重度化した際の家族の希望をたずねている。 2)実際に重度化の兆候が出現した場合にも再度、家族と相談している。 3)施設で出来る事を十分に説明している。	終末期の希望を、入居時に文書にて確認しており、常時医療を必要とする状態には対応出来ないが、看護師による24時間オンコール体制、訪問看護による点滴管理等、看取りの希望に応えられることを説明している。担当医師から手紙や直接に、密に指示を仰いでいる。退去の場合も、他施設の紹介など相談に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルを作成し、職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1)防災訓練を行っている。 2)運営推進会議でも、災害時の相互支援について話し合っている。	年2回の防災訓練を行っている。夜間時に夜間勤務の職員が、併設の特養と合同で、簡易タンクで入居者を運ぶ等、実践さながらに行っている。その際、近隣に住まう職員への通報と出所の訓練も実施している。火災報知器、消火器の点検は業者が定期的に行っている。3日分の米、水、食料の備蓄がある。	今後、災害時に備え、地域の協力体制が確立できるよう、運営推進会議での地域への働きかけや、関係構築に取り組んでいかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にスピーチロックに注意し、生活空間内で大声を出さない様、心掛けている。	新任職員に対しては、一定期間先輩職員が付き添い、業務の中で折に触れ、入居者の尊厳、プライバシーについて指導している。現場での対応に問題が見受けられればその場で指導し、事例を職員自身に書かせて自覚を促している。月に一度の身体拘束委員により、特にスピーチロックの意識の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、傾聴することで、ニーズを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律の介護を行わない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、着るものは本人の希望を聞いて選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備からもりつけ、配膳まで参加してもらえる様、努めている。	調理の際、入居者自身で下準備や盛り付け、記名された個人の箸の取り分け等が出来るよう、職員が共に行い支援している。月数回、外食や宅配等を利用したイベントランチを行い、入居者の希望に込んでいる。苦手な食材を好みの物に替えて提供したり、席の位置に工夫し、職員も共に会食して、食事が楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1) 食事摂取量及び水分補給量をグラフで確認している。 2) 個別の注意点も把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、歯磨きの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1) 個々の排泄パターンを把握した声掛け、定期誘導を行っている。 2) 出来る限り本人が自立できる環境が作れる様、職員間で話し合い、決定している。	自立排泄の人が多数であり、日中は布の下着を着用している。見守りで排泄を確認し、チェック表を用いてパターンを把握している。夜間は、安眠が得られるようパッドに工夫し、30分に一度の巡視で、個々の状態に合わせて支援している。退院後等のADL低下の際にも、本人の意向を第一に、自立に向けて職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1) 下剤に頼る前に運動を促している。 2) 青汁、ヨーグルトを毎日提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている。	基本週2回であるが、希望があれば毎日好きな時間に、個々に合った入浴方法で入浴できる。浴槽の湯はその都度、交換と清掃を行い清潔を保持し、足マットを交換して感染予防対策をしている。入浴後はスポーツドリンク等、希望のものを提供。拒否の強い入居者には、声掛けに工夫したり、代わりに清拭をする等本人本位に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1) 日中は体を動かせる場を作り、夜間は安眠できるように努めている。 2) 起床、就寝時間は各々の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1) 処方箋及び薬のデータをファイルに挟み、都度確認している。 2) 副作用による変化がないか、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1) 炊事、掃除など役割を持ってもらうことで張り合いを感じてもらえる様支援している。 2) 嗜好品、趣味の活動を行なえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1) 希望者とは散歩出来る様努めている。 2) 日常的に行きたい場所のアンケートを取り、順次叶えている。	買い物や神社へ散歩を兼ねて、日常的に外出している。また、気分転換にベランダへ出たり、園芸をする等室外へ出る機会を作っている。祭りや大型スーパーや、テーマパーク等、その人の楽しめる行き先を「生活史」から考慮して個別で出かけたたり、花見や外食等へ全員が楽しめるよう、日を分けて少人数で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の持参も認めている。金銭管理も行っている。こづかい管理も行っており、外出時にはこづかいをもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	1)年賀状を家族に書いている。 2)電話等入居者からの希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者間の相関関係を考慮した座席配置をしている。	共有スペースは、落ち着いた色調である。廊下、トイレ、トイレのドアなど広々としているので解放感があり、床はカーペット敷きであるので、万が一転倒した場合クッションの役目を果たす。壁には入居者の習字作品の展示がある。台所は対面式なので見守り、会話をしながら調理できる。食卓テーブルは、入居者の身体に合わせた高さで支援している。	現在、歩行補助具としてシルバーカーを使用しているが、手すりの設置等、事故の予防に向けてさらに検討されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1)仲間単位で過ごせる様に留意している。 2)一人になりたい方は部屋で過ごす事を勧めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくご自宅で使用された物品で居室が埋まる様提案している。	家具や生活用品を自由に持ち込み、配置したり、好みの寝具やカーテンで居心地良い環境を整えている。家族と毎日読経を続けている人や、出入り口の幅広スライドドアを常時開放する人、鍵をかける人等おり、その人らしい暮らしが尊重されている。食品持ち込みは安全を第一に配慮し、居室での食事の希望あれば支援する等、柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動を束縛せず、建物内を自由に動いてもらっている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームくらら

目標達成計画

作成日: 平成 26年 11月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I、1 (1)	理念に基づいてケアに取り組んでいる。しかし、職員の中に徹底していないところがある。	職員がいつでも理念を言え、理解している。	再度理念を理解してもらう為に、朝の申し送り時などに職員で唱和する。	6ヶ月
2	I、1 0 (6)	家族へ施設で行っていることがわかるようにしたい。しかしお便りなどを出すところまでできない。	施設での様子が家族全世帯にもわかるようにしていき、意見や要望を運営に反映したい。	運営推進会議の内容をユニット入口に置いて、家族面会時等自由に見ていただく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。